

静岡理工科大開学30周年

再エネ題材 記念講演

静岡理工科大(袋井市)は16日、開学30周年の記念式典・記念講演会を浜松市中央区で行った。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)技術戦略



講演する仁木さん
＝浜松市中央区

研究センターの仁木栄さんが「カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーイノベーション」と題し、再生可能エネルギーの現状や将来像を解説した。

仁木さんは同センターでサステナブルエネルギーユニット長を務めている。2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ(カーボンニュートラル)に向け、太陽光発電や風力発電をはじめとする再生可能エネルギー利用の意義を紹介した。その上で「温暖化対策を経済成長の制約やコストと考える時代は終わった。対策を成長の機会と捉える時代に突入している」と強調した。

式典では野口博学長が「地域社会と相互に理解し合い、人材育成を進めたい」とあいさつした。初代理事長を務めた鈴木与平鈴木会長は「多くの卒業生が県内で活躍している。多くの方々のおかげだと述べた。式後は、同大の教職員が研究成果を発表するフォーラムを開催した。